



穂肥施用後は、根の活力を維持！ 斑点米カメムシ類多い！草刈りの徹底を！

◎ 生育概況と技術対策

「雪若丸」の7月8日現在の生育は、指標値に比べ、草丈と葉数は並み、茎数は多く、葉色は濃くなっています。

農業総合研究センターの幼穂調査では、出穂期は早い予想です。

平坦部「雪若丸」の生育（7月8日）

項目	調査値	指標値	指標比・差
草丈	51.3 cm	50.9 cm	101 並み
茎数	728 本/m ²	634 本/m ²	115 多い
葉数	10.6 枚	10.4 枚	0.2 並み
葉色 (SPAD)	44.8	41.2	3.6 濃い

※各農業技術普及課の調査結果を平均した値

「雪若丸」予想出穂期（7月8日現在、農業総合研究センター調べ）

場所	予想出穂期	平年出穂期	平年差
山形市みのりが丘	7月31日	8月2日*	-2日
鶴岡市藤島	7月31日	8月2日	-2日

※過去6か年（H27～R2）の平均値

（1）穂肥後は間断かん水！

穂肥施用後は、飽水管理（土壌表面の足跡に水が残る程度）を行い、その後は間断かん水に移行します。2～3日毎に湛水と落水を繰り返し、根の活力維持に努めましょう。

（2）最低気温が17℃を下回るような低温の場合は深水管理！

穂孕期（出穂14日前～7日前頃）に、最低気温が17℃を下回ることが予想される場合には、深水管理で幼穂を保護し、不稔の発生を軽減します。

（3）斑点米カメムシ類多い！草刈りの徹底を！

斑点米カメムシ類の発生は多い予想となっています。畦畔や法面、農道の雑草が繁茂しているところでは、地域全体で出穂2週間前頃までに草刈りを進めましょう。

農作業事故と熱中症に十分注意してください！

休憩をこまめにとり、水分補給を行いながら、無理のない作業を！